

「東北地方太平洋沖地震災害と御遠忌」

まず、去る3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により被災された皆様には、衷心よりお見舞い申しあげます。

真宗大谷派では、3月19日から28日まで予定しておりました宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌第1期法要は、激甚災害の現実と原子力発電所の深刻な事態を受け、中止となり、真宗本廟において「被災者支援のつどい」としての法会が開催されました。被災された方々と悲しみを共にしてまいることが支援への第一歩であり、このことこそが、宗祖親鸞聖人のご精神に適（かな）う、いま為すべきことであるとの決意のもと、本つどいでは、被災状況や宗派の救援活動についての報告がなされ、被災者や参加者に向けての多数のメッセージが披露され、引き続きご法話もあり、この災害に対する様々な思いを聴くことができました。

連日テレビ・新聞でも被災地の現状や原子力発電所の報道がなされており、いまなお深い悲しみの中で、苦難の生活を強いられている方々の目を追うごとに増す悲惨な状況が目には飛び込んでまいります。と同時に、ボランティアの方々や様々な被災者支援の活動を知らされても、ただ現実から目を背けようとしている自分がいます。

今自分にできることは、何かを考えるとき、物資の支援はもちろんでありましようが、今回の震災で亡くなられた方、避難生活を余儀なくされている方々から、目をそらさず、耳を傾け、声を聞き続け、その「重さ」を深く受けとめ、心に刻み、具体的な行動で応えていくことだと思えます。

4月19日からの第2期法要は、「宗祖としての親鸞聖人に遇う」という御遠忌基本理念のもと、被災された方々に思いを馳せ、悲しみを共にしながら、いよいよ「人間回復の一道」を証していく御遠忌法要が厳修されます。

被災者の皆様と共にあるという思いを決して失うことなく、憶念してまいりたいと思えます。